



情報提供資料

TDAMフォワード・ルッキング・リサーチ

債券運用部 チーフ・ストラテジスト兼ファンドマネージャー 浪岡 宏

2021年9月14日

～日本株は過熱しすぎか？～

菅首相が、自民党総裁選に出馬しない意向を示してから、日本株は大幅に上昇してきました。政治的な要因もさることながら、海外株に比べて出遅れ感のあった見直し買いという一面もあったように感じます。

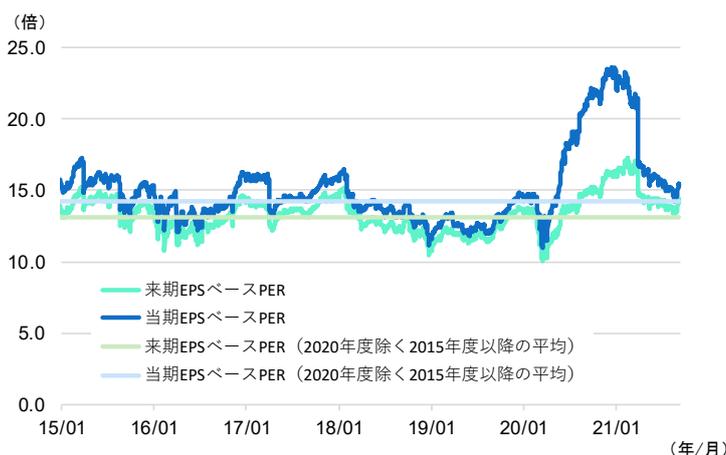
株価の上昇が急ピッチであることから、一部では過熱しすぎとの見方もされていますが、果たしてどうでしょうか。

足許の当年度EPSベースのPER（株価収益率）は、15.4倍と平均的な水準（2020年度除く2015年度以降の平均は14.2倍）より高く、たしかに、足許で割高感が生じています（グラフ①）。このため、目先は上値が重くなる可能性があります。

もっとも、PERの前提となる予想EPS（一株当たり当期純利益）は堅調に推移してきました（グラフ②）。さらに、足許で新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にあることを踏まえると、今後も予想EPSは堅調に推移すると考えます。

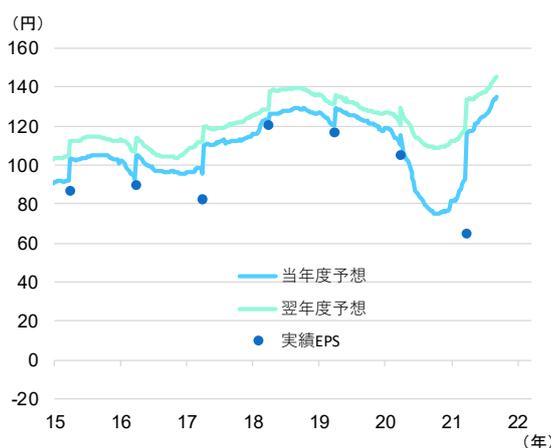
このような状況を踏まえれば、短期的に株価は調整する可能性はありますが、長期的には底堅く推移すると考えます。

グラフ① TOPIXのPER推移



期間：2015年1月5日～2021年9月10日（日次データ）

グラフ② TOPIXの予想EPS推移と実績



期間：2015年1月9日～2021年9月10日（週次データ）

出所（グラフ①②ともに）：東京証券取引所、ブルームバーグのデータをもとにT&Dアセットマネジメントが作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。本資料は作成時点での見解であり、今後予告なく変更する場合があります。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。